

別紙様式

「児童生徒、もしくは教職員のコミュニケーション能力の育成・向上」に関する実践事例

学校名	山口県立高森みどり中学校
テーマ	コミュニケーションスキルの活用能力の育成
対象者（学年）	全学年
実施場所	視聴覚室 各ホームルーム教室
<p>内容（具体的な取組）</p> <p>(1) ねらいと展開</p> <p>コミュニケーションスキルの活用能力を育成するため、その構想を以下のようにした。</p>	
<p>(2) 実践の工夫</p> <p>「人間関係づくり」では、AFPY（※1）の手法を有効と考えその手法を取り入れた行事や授業に取り組んでいる。各教科の授業や道徳・学級活動あるいは掃除や短学活、部活動等で問題解決場面やその後のふりかえりの時にお互いの思いを伝え合う活動を行い人間関係を深めている。「グループワーク」は、各教科の学習目標を達成させていくなかで、伝え合う学習活動を設定している。学校設定の選択教科である「総合コミュニケーション」は、個から他者そして国際社会へとコミュニケーションの対象を広げて行こうと取り組み、国語科・英語科・理科・社会科の教員を中心に合科という形で授業計画を立て実践している。主な学習内容は3分間スピーチ・ディベート・インタビュー(1年次)、英会話・英語劇(2年次)、オーストラリア語学研修で行う日本紹介の準備(3年次)である。</p> <p>※1 AFPY (Adventure Friendship Program Yamaguchi) とは、個人や人間関係のより良い変容をめざして、山口県の指導者が健康な子どもから大人までを対象に、AFPYの指導要領・指導原理に基づき、主に集団に関わるさまざまな理論や技法を活用して実施する集団活動の総称。</p>	
<p>(3) 成果及び課題</p> <p>様々な学習活動のまとめの後に表現力を高めるための場面を設定し、発表能力、プレゼンテーションのスキルの向上を今まで以上に図ることができた。しかし、技術的な面が重視され、他者の考えを取り入れ自分の考えを深め、それを表現しようという思いがまだ不足している。今後は、相互の表現をしっかりと聞き、表現を磨き合う力の育成が課題になると考えている。そのためには、教師の課題として、日常の授業の中での表現を磨き合うような場面設定、表現が深まるような対話の支援が考えられる。そこで、今年度、班学習を積極的に取り入れた授業研究等を行うことにしている。</p>	
参考資料	なし
学校ホームページアドレス	http://www.takamori-h.ysn21.jp/